

# アラハン センパイ 先輩

Vol. 9

アラハンとは…100歳前後の人のこと  
「アラウンド・ハンドレッド」の略

人生のアラハン先輩に  
長生きのヒント  
生活の知恵など様々な  
お教えを頂きます！



第一交通産業株式会社 相談役 黒土 始さん (100歳)

今号の  
アラハン  
先輩



始龍 (しりゅう)  
日本を代表する気鋭の墨絵・陶墨画アーティストである西元祐貴氏の作品。  
黒土さんのまさに「龍」の如き比類なき孤高の姿を描いた。



—百歳になられたそうですね。おめでとございます。百歳というところ、黒土さん 大正11年(1922年)に大分県の中津で生まれました。誕生日は1月31日です。

—百歳を迎えられた時のお気持ちはいかがでしたか。

黒土さん 全力で走ってきましたので、あっという間に100歳になっていた、そういう感じでしたね。若い頃は、70歳代まで生きれば結構だと思っていましたかね。

—長生きの秘訣を教えてくださいませんか。

黒土さん ひと言で言いますと、規則正しい生活ですね。私が起きているのは朝の7時です。会社に出ているのは毎日9時半から10時の間で、長いときは夕方まで会社で仕事をしています。寝るのは夜の9時です。ただ、夜はよく目が覚めますが、睡眠を充分にとるのは大切なことです。この生活のリズムは、会長時代も、相談役になった今も変わりません。

—食生活では、どう気を付けているのですか。

多くの苦難を乗り越えてきました。今でも不動明王をずっと信仰しています。北九州市民の心の支えになればいいなというところで、北九州で一番古い広寿山福聚寺に三仏堂を寄進し、不動明王様を祀っています。ですから、皆さんから「神の子だから、天性のカンが備わっている」とよく言われるのですよ。

—これから相談役として、どんなことを手掛けていきたいのですか。

黒土さん 岸田首相も言っているように、私は人への投資が必要だといつも考えてきました。特に、会社ではタクシー乗務員の生活を向上させて一体感を築いてやってきました。だから、まず人づくりをやりたいですね。それに社会奉仕。また、困った企業、頑張っている企業を応援する基金でしょうか。

—常に人のため、社会のためですね。黒土さんの北九州市に対する思いをお聞かせください。

黒土さん 市長や副市長にお会いした時などは、「北九州をもっと発展させるー福岡に負けてるじゃないかー」と叱咤激励しています。もっと頑張りたいと思っています。

黒土さん 野菜を多く食べるように気を付けています。口の中では35回噛むようにもしています。晩酌も適度にやっています。私の歯のほとんどは自前の歯ですよ。

—黒土さんは今年6月の第一交通産業の株主総会で相談役に就任されました。それまでは、代表取締役副社長会長だったのですよね。ということは、百歳まで現役で働いておられたことになりませんか。どのような仕事をされていたのですか。

黒土さん いろいろなことをしてきました。政界や業界への各種の注文や調整をはじめ、そうそう、名誉博士号をいただいた大分大学で講演もしましたね。積極的な社会貢献を心掛けてきました。もちろん、会社の事業のことはいつも考えています。

—会社の事業ではどんな風に。

黒土さん 例えば、タクシーの営業などがうまくいってないんじゃないかなって夢を見ます。出社してすぐにタクシーの副社長を呼ぶわけです。すると、「会長の言われる通り、ちょっとうまくいってないんです」との返事が返ってきます。そんな時は、すぐに対応を指示します。現場

小倉北区の私の家の前に第一交通のグループの土地があるのですが、コロナで閉じこもっている市民のために貸し農園にし、「足立農園」と名付けました。大変好評で、満杯だと聞いています。

—最後に、元氣印のアクティブシニア、さくら「の読者の皆さんに一言お願いします。

黒土さん 私は『生涯実車』で生きてきましたが、皆さんには「生涯現役」を貫いて欲しいですね。そして、私の願いは、心おきなくお墓に入ることですね。

や街で気付いたことなどを頭の中で考えていくと、世の中が何を求めているのか、会社の中の足りない面などが見えてきますので。

私がタクシー5台から立ち上げた第一交通産業は今や日本一のタクシース会社に育ちました。ですから、今の言葉でいうマーケットとか、市場とか、どこが衰退し、どこが繁栄しているかなどというのは大体にわかってはいます。人生イコール仕事みたいなところがあって、身体に染み込んでいくんですね。

新型コロナウイルスが流行し始めた時、皆さんマスクがなくて困りましたよね。私はすぐに担当者呼んでマスクを寄付しなさいって指示しました。それに、テレワークへの取り組みなど、いち早くウィズコロナを想定した経営や社員の生活などへの改革・改善を進めるようになってきました。

—時代を先取りするとうか、そのような発想がどこから生まれてくるのですか。

黒土さん 実は、私が生まれてからずっと、母に「神の子」不動明王の子って言われ続けてきたのです。その言葉が私の心の支えとなり、幾

## 黒土 始さん

大分県中津市出身。1941年(昭和16年)、徴兵のため大分高等商業学校(現大分大学経済学部)を中退。終戦後、卸売会社などを経て、1960年にタクシー5台で今の第一交通産業の前身となる第一タクシーを創業。全国各地のタクシー会社と合併するなどして経営を拡大。全国一のタクシー保有台数を誇る企業グループに成長させた。今もほぼ毎日、会社に出勤し、オンラインで開く取締役会にもほとんど出席している。

## 賞罰

- 昭和56年 紺綬褒章 受章
- 昭和58年 藍綬褒章 受章
- 平成4年 勲四等瑞宝章 受章
- 平成10年 郵政大臣表彰 受賞
- 平成25年 勲三等旭日中綬章 受章
- 平成30年 紺綬褒章 受章
- 令和元年 大分大学名誉博士称号 受称